

C23 石灰質ノジュール（子生まれ石）榛原郡相良町 西萩間(静岡県GEO DATA(8) : 地学散歩(87))

著者	松本 仁美, 青木 克顕
雑誌名	静岡地学
巻	107
ページ	iii-iii
発行年	2013-06-23
出版者	静岡県地学会
URL	http://doi.org/10.14945/00024608

C23 石灰質ノジュール（子生まれ石） 榛原郡相良町西萩間



国土地理院 1:25,000 相良



大興寺西側の沢にある鮮新世の掛川層群（400万年前～200万年前）堀の内泥層中から産出される石灰質ノジュールである。化石などが核となりその周りに石灰質分が濃集してノジュールができると考えられる。崖に列状にノジュールが並ぶことから、その層の堆積した当時の海底がノジュールを作りやすい環境だったと思われる。近くの大興寺の住職が代わる度に崖から丸い石が落ちてくるという言い伝えがあり、子生まれ石と呼ばれるようになったらしい。形状がひょうたんにも似ていることから、縁起のよい石として信仰され、遠州七不思議に数えられている。大興寺の境内には、この石を石塔にした代々の住職の墓がある。（松本仁美・青木克顕）

その層の堆積した当時の海底がノジュールを作りやすい環境だったと思われる。近くの大興寺の住職が代わる度に崖から丸い石が落ちてくるという言い伝えがあり、子生まれ石と呼ばれるようになったらしい。形状がひょうたんにも似ていることから、縁起のよい石として信仰され、遠州七不思議に数えられている。大興寺の境内には、この石を石塔にした代々の住職の墓がある。（松本仁美・青木克顕）